

令和元年度

事務事業評価表 A (平成30年度の実績評価)

記入年月日
平成 31 年 4 月 17 日

事務事業名		身近なみどり整備事業				事業区分		担当		
						新規/継続	継続	事務事業No.	040104000802	
						単独/補助	補助	所属課	050101	
政策体系	総合計画の施策名	0401 農林業の振興				主要事業		グループ	農林課	
	政策名	04 活力ある産業のまちづくり				市長マニフェスト				
	施策名	01 農林業の振興				未来PJ事業		農林G		
	手段名	04 農村環境の保全				合併建設計画事業				
財務会計上の位置付け						事業期間				
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	一般会計			
	01	06	02	02	03	00	身近なみどり整備推進事業			
法令根拠	茨城県身近なみどり整備推進事業実施要領					単年度繰返し (年度~)				
	【Do】 1. 事務事業の現状把握 (その1)					← 期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入				

手 段	①事務事業の概要 (事務事業の全体像)		②担当者が行う業務の内容・やり方・手順	
	<p>森林湖沼環境税を利用して、桜川市内における整備が必要な平地林や里山林の整備、保全を進めていく。</p> <p>この事業によって整備した地域については、その土地の所有者と10年間の保全管理協定を結び、森林などの管理を継続して実施してもらい、景観の維持に努める。</p>		<p>土地所有者からの整備要望のとりまとめ→要望地の選定・現場確認→県に整備計画書提出→補助金交付申請→土地所有者と協定書の締結→工事設計書の作成→工事の発注及び管理→実績報告書作成</p>	

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移									
①手段 (担当者の活動内容)		④活動指標 (活動量を表す指標)		単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	01年度 (計画)	02年度 (目標)	03年度 (目標)
土地所有者からの整備要望のとりまとめ→要望地の選定・現場確認→県に整備計画書提出→補助金交付申請→土地所有者と協定書の締結→工事設計書の作成→工事の発注及び管理→実績報告書作成		工事発注件数		件	4.00	3.00	7.00	7.00	7.00
					0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
					0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
					0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)		⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)		単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	01年度 (計画)	02年度 (目標)	03年度 (目標)
民有地・地域環境保全に寄与する地域		市の森林面積		ha	6,400.00	6,400.00	6,400.00	6,400.00	6,400.00
					0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
					0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)		⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)		単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	01年度 (計画)	02年度 (目標)	03年度 (目標)
生活環境の保全や美しい計画の維持		事業実施面積		ha	5.42	9.97	10.00	10.00	10.00
					0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
					0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(3) 投入量 (事業費) の推移										
投 入 量	事 業 費	財 源 内 訳	国庫支出金	千円	0	0	0			期間限定 総投入量
			県支出金	千円	7,397	13,635	14,000			0
			地方債	千円	0	0	0			0
			使用料・手数料	千円	0	0	0			0
			その他	千円	0	0	0			0
			一般財源	千円	65	100	100			0
			事業費計 (A)	千円	7,462	13,735	14,100			0
			正規職員従事人数	人	2.00人	2.00人	2.00人			

事 業 費 の 内 訳	30年度事業費 実績 (千円)				01年度事業費 予算 (千円)			
	11 需用費	100			11 需用費	100		
	13 委託料	13,635			13 委託料	14,000		
		合 計	13,735		合 計	14,100		

(4) 当該年度の実施内容			
※下記に該当する事業は、年度ごとに事業内容を記入する		01年度の事業内容	02年度の事業内容
<ul style="list-style-type: none"> ・主要事業 ・市長マニフェスト ・未来PJ事業 ・合併建設計画事業 			

事務事業名	身近なみどり整備事業	事務事業No.	40104000802	所属課	農林課
-------	------------	---------	-------------	-----	-----

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その2)

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?

平成20年度から県の森林湖沼環境税を財源に事業が開始され、通学路等の道路沿線・公共施設及び住宅団地等周辺の森林、地域の自然景観を形成する森林、霞ヶ浦等の湖沼の水質浄化に結びつく森林など、県民生活に身近な森林(平地林・里山林)を地域主体で適正に整備・保全し、地域住民にとって快適で豊かな森林環境づくりを推進する。

(6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者)からどんな意見や要望が寄せられているか?

住民からの整備要望も多くなっており、今後の期待も大きい。

(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評 価 項 目

目的 妥当性	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか?)	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	道路沿いの森林整備や平地林・里山林の整備、有害鳥獣対策としての緩衝帯整備といった森林整備を行うことで、市内の森林環境の改善や向上に結びついている。
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?) (法定受託事業はその名称)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	県民から徴収している森林湖沼環境税の還元のため、市での事業実施は妥当である。
有効性	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?)	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	住民からの要望を考慮するとともに、計画的に適正な場所を選定し施工していくことで、更なる森林環境の改善や向上が期待できる。
	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?)	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有	森林の公益的機能が発揮できずに、森林の荒廃が進む。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか?(市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) ⇨ 具体的な手段、事務事業名	<input checked="" type="checkbox"/> 余地がない	規模が大きいため、他の事業では対応できない。
効率性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか?やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか?)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	普段から整備されていない森林が多いため、山林の刈払いや整理伐等の整備費の削減は難しい。
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?)	<input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である	森林湖沼環境税の還元のため、受益者負担は公平・公正である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																		
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	⇨	道路沿いの整備、平地林・里山林の整備、有害鳥獣対策としての緩衝帯整備等、様々な観点から事業が実施できた。今後は、更なる住民からの要望の掘り起こしを行い、効率的な事業の実施をしていきたい。																		
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																		
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止		(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																		
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策		<table border="1"> <tr><th colspan="3">コスト</th></tr> <tr><th></th><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr> <tr><th rowspan="3">成果</th><td>向上</td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>維持</td><td></td><td>×</td></tr> <tr><td>低下</td><td></td><td>×</td></tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上	○		維持		×	低下		×
コスト																				
	削減	維持	増加																	
成果	向上	○																		
	維持		×																	
	低下		×																	
森林環境湖沼税が終了する令和3年度以降について、事業の存続が未確定な部分はある。県補助事業であるため、県の指導に沿って対応する。また、森林環境譲与税による対策も検討する必要がある。		(6) 事務事業優先度評価結果																		
		成果優先度評価結果 ⑧																		
		コスト削減優先度評価結果																		

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input checked="" type="checkbox"/> A A:継続(現状維持) C:終了、廃止、休止 <input type="checkbox"/> B B:継続(改革改善を行う) D:2次評価へ提出	確認欄 <input checked="" type="checkbox"/> 確認